

いつもそばに。

—妊産婦に寄り添う“まち”—

頼り、助け合いながら、

いつでもどこでも安心して子どもを産み育てることができるまちづくり。



A18AB133 水谷璃子



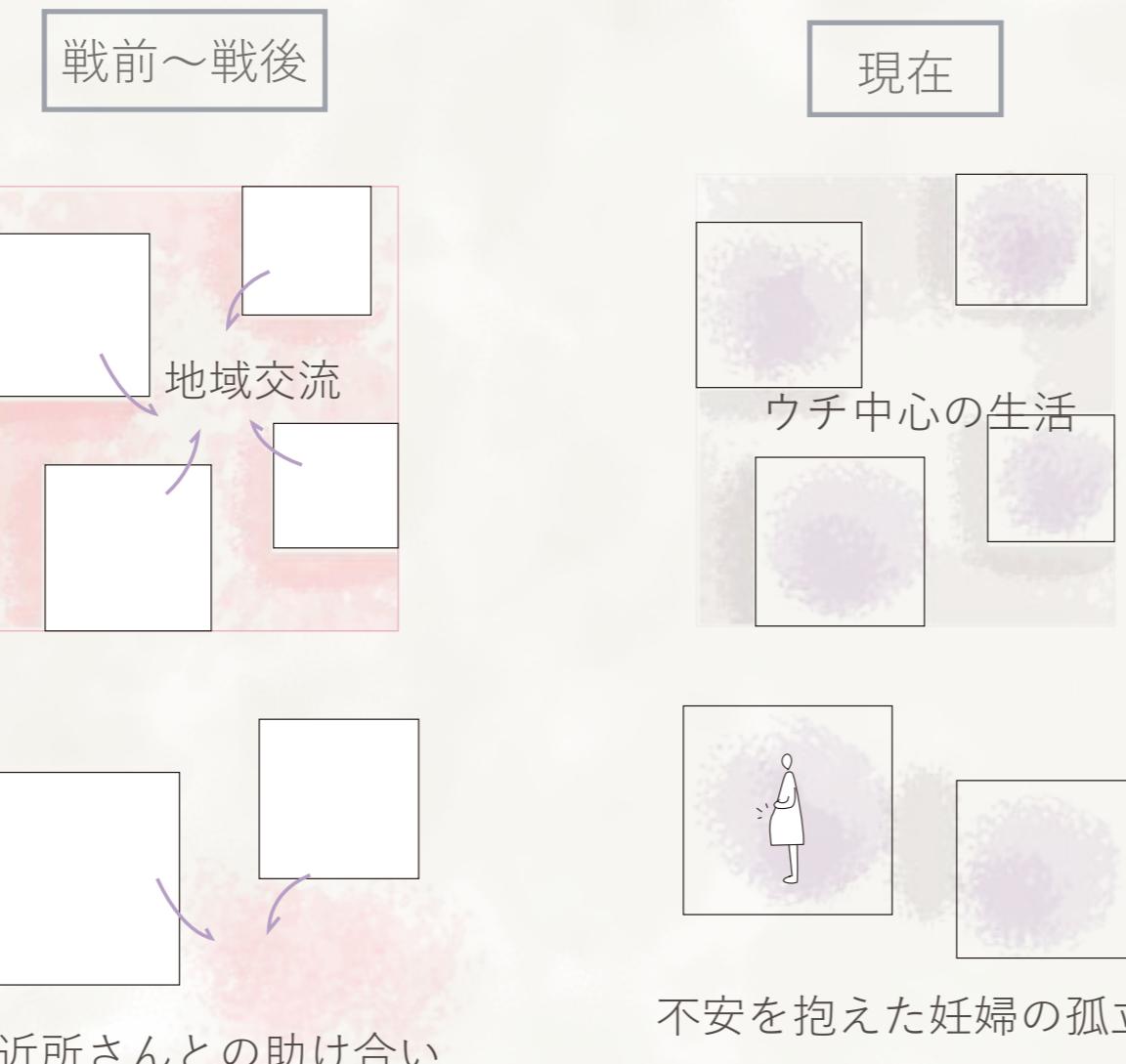
01. 妊産婦うつ問題

妊産婦の約10%がかかるといわれている妊産婦うつ。短期間に重症化しやすく、発症時期も様々であるため、産前～産後まで継続的に妊産婦をサポートし早期発見・対応する必要がある。しかし、サポート体制や、施設はまだ普及しておらず改善が必要である。



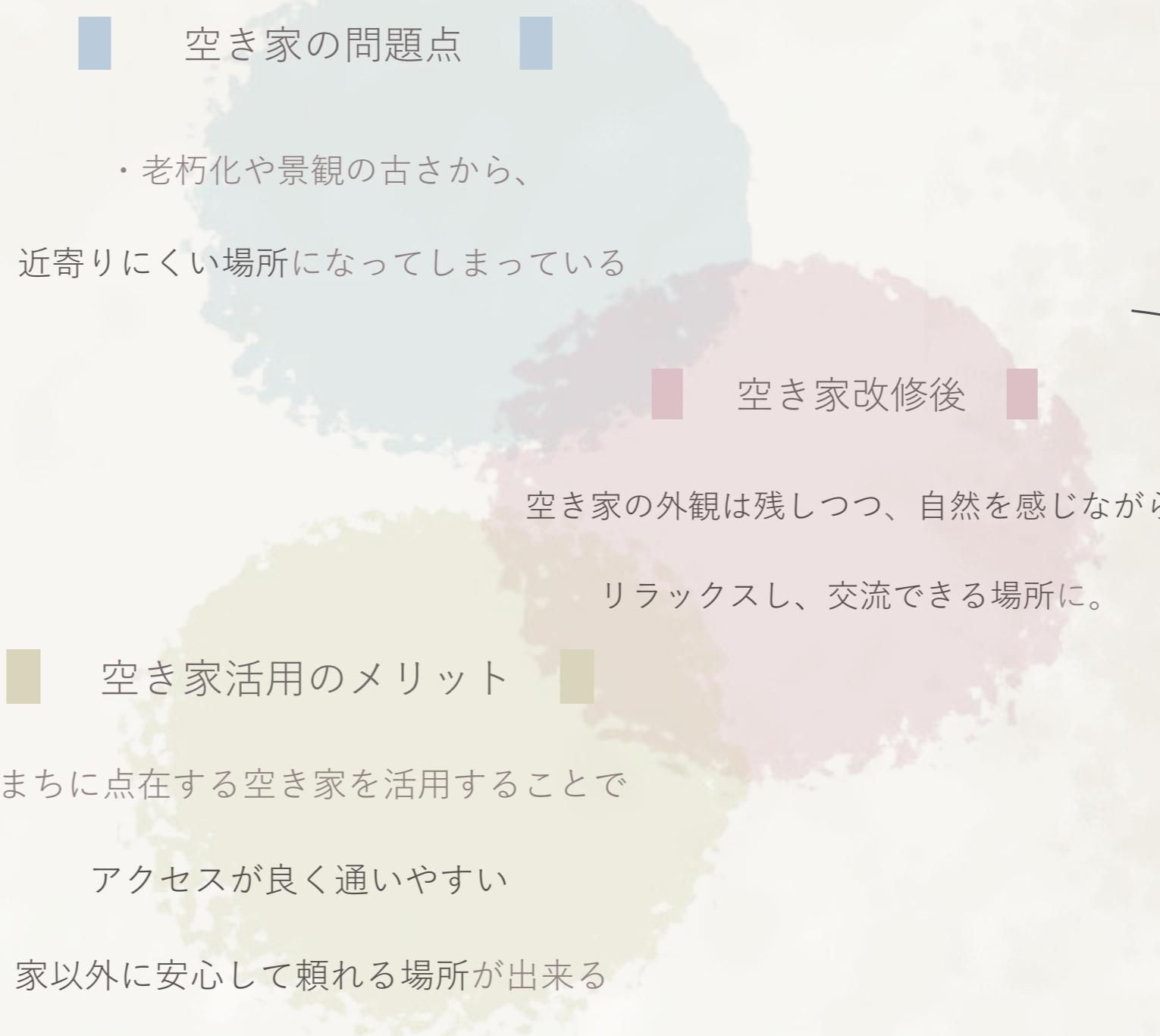
02. 核家族化進行による妊産婦の孤立

産婦うつが増加傾向にある原因の一つとして、「核家族化」があげられる。戦前～戦後にかけ私たちは繋がりを大切にし、家族だけでなくご近所さんや親戚など様々な人と親密に関わりながら生活してきた。しかし、核家族化の進行に伴い、それらは希薄になり妊産婦が孤立する状況になってきている。



03. 空き家問題

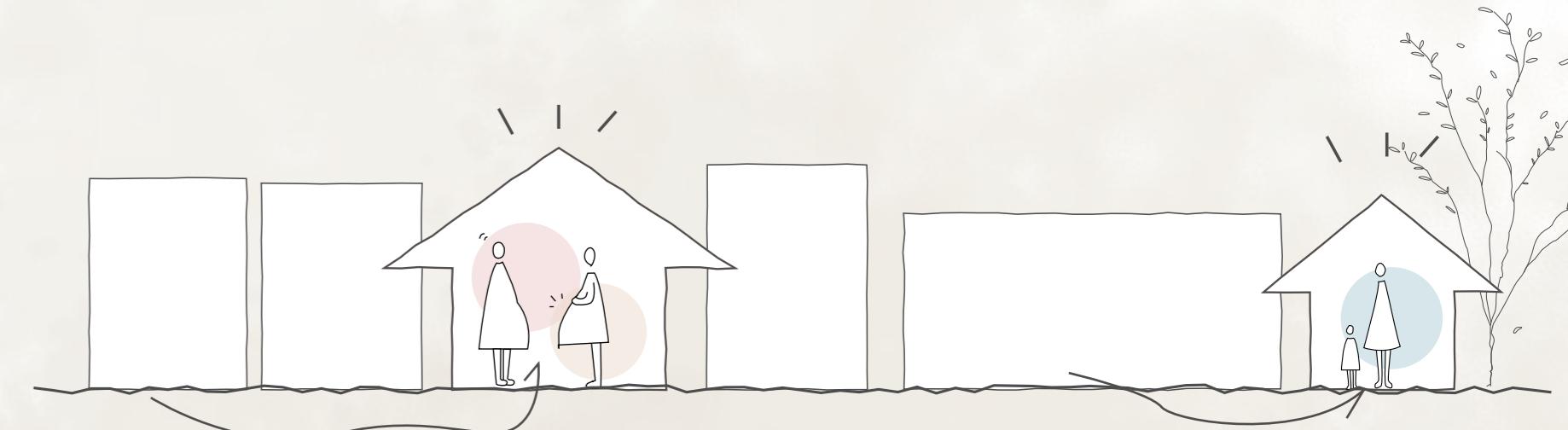
空き家を活用した妊産婦ケアの仕組みを提案する。



04. コンセプト

「いつでも頼れる、妊産婦とその家族に寄り添うまち」

妊産婦の継続的なケア + 空き家活用 + 地域交流の場



妊娠中～出産～小学校入学まで育児サポートを行う。
家以外に安心して頼れる場所ができることで妊産婦の育児負担が減り、妊産婦うつの予防につながる。また、メンタルサポートの場を多く設け、自然に癒される空間づくりを目指した。

将来的には空き家を活用した育児ケアの家が各地域に点在し、妊産婦とその家族は地域交流をしながら、共に喜び、支え合って育児ができるまちに繋がるよう願いを込めて設計した。

05. 対象敷地

敷地：愛知県弥富市
総人口：44,151人
用途地域：第一種住居区域
出生数：336人（2019年）
合計特殊出生数：1.50人

弥富市は「地域の活力を向上させ、若い世代が集まり、安心して子どもを産み育てることができる地域社会の実現」を人口ビジョンに掲げている。しかし、市内に産婦人科専門病院はなく妊産婦は総合病院か市外の病院で出産しており、育児で困った時にすぐに相談して頼れる環境ではないのが現状である。

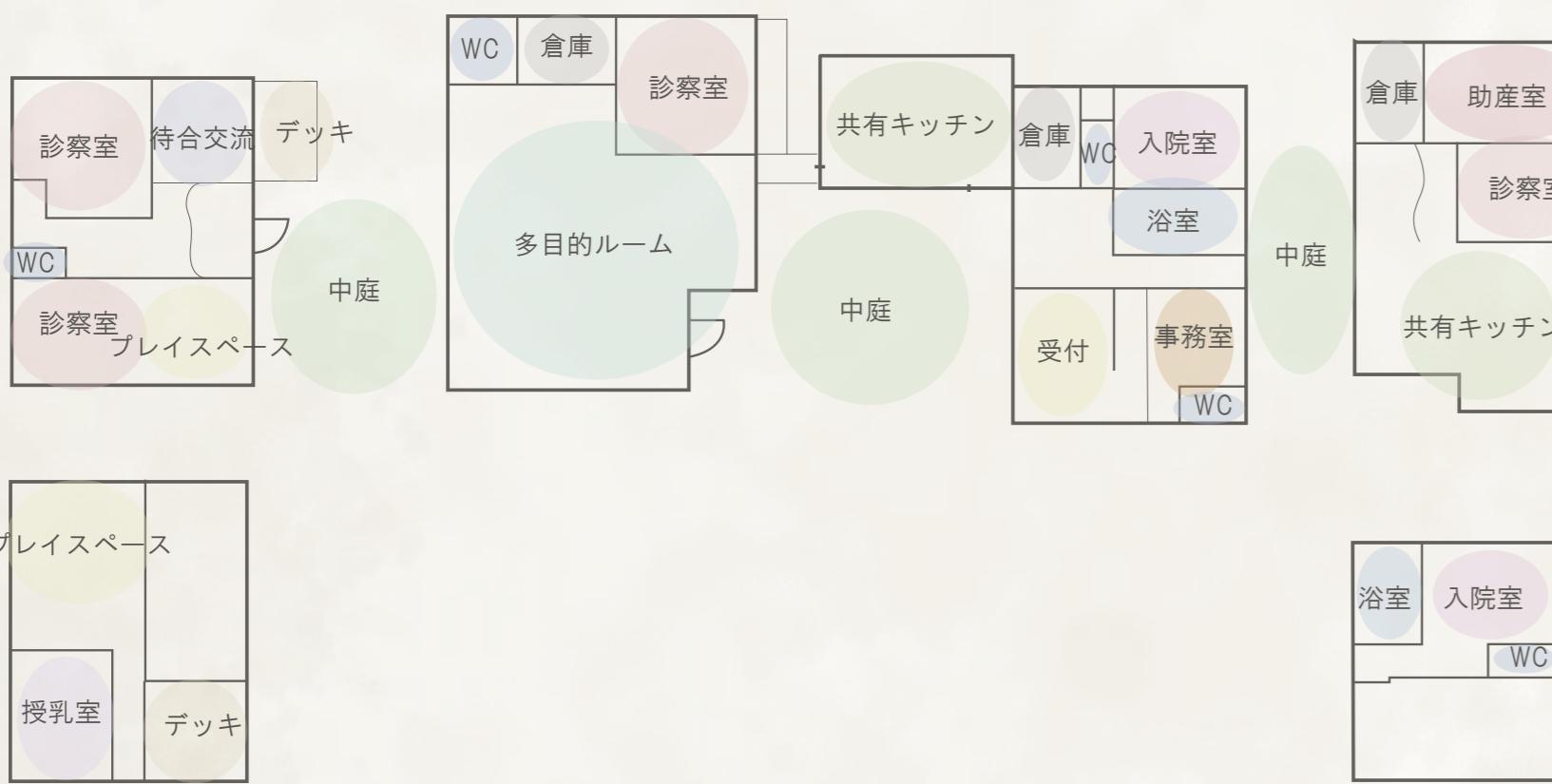
↑ 愛知県弥富市地図



06. 敷地面積

住宅街の空き家 7軒 + 空地一箇所

①	面積：125m ²
②	面積：117m ²
③	面積：90m ²
④	面積：63m ²
⑤	面積：72m ²
⑥	面積：67m ²
⑦	面積：175m ²



①②定期健診・交流

小学校入学までの定期健診
パパママ交流・教室

子どもたちの遊び場・地域のミニキッチン

③④助産所・入院

家で出産したい方向けの助産所
入院室
入院患者とその家族用キッチン

A 出産・健診

健診・出産・相談・入院
手術が必要な方の出産場所

⑤先輩ママとの交流の場

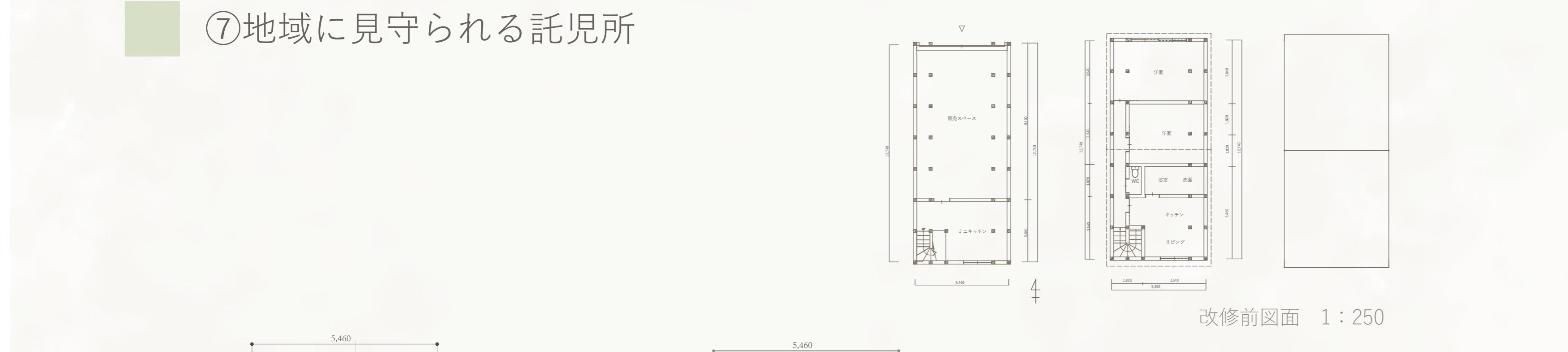
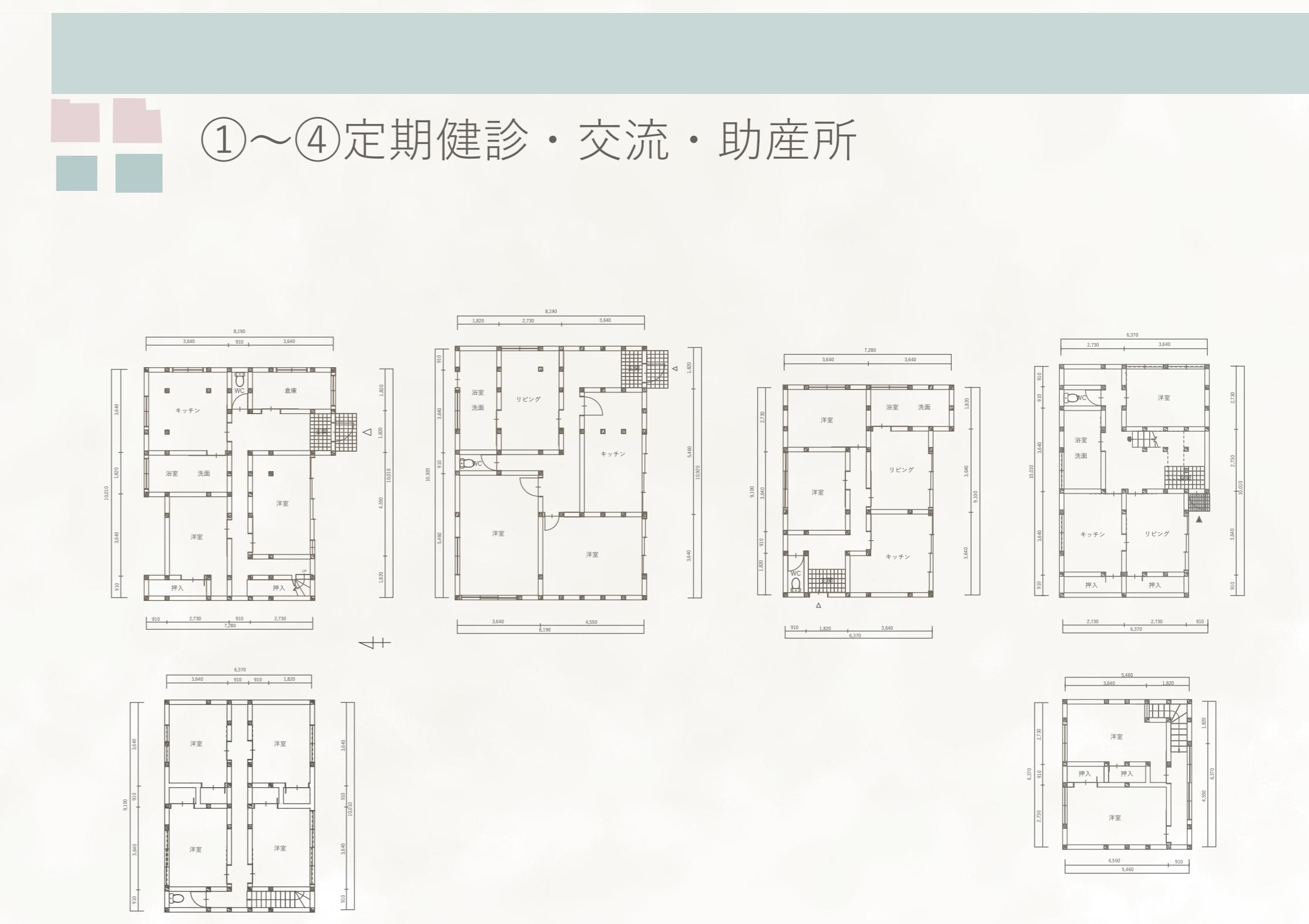
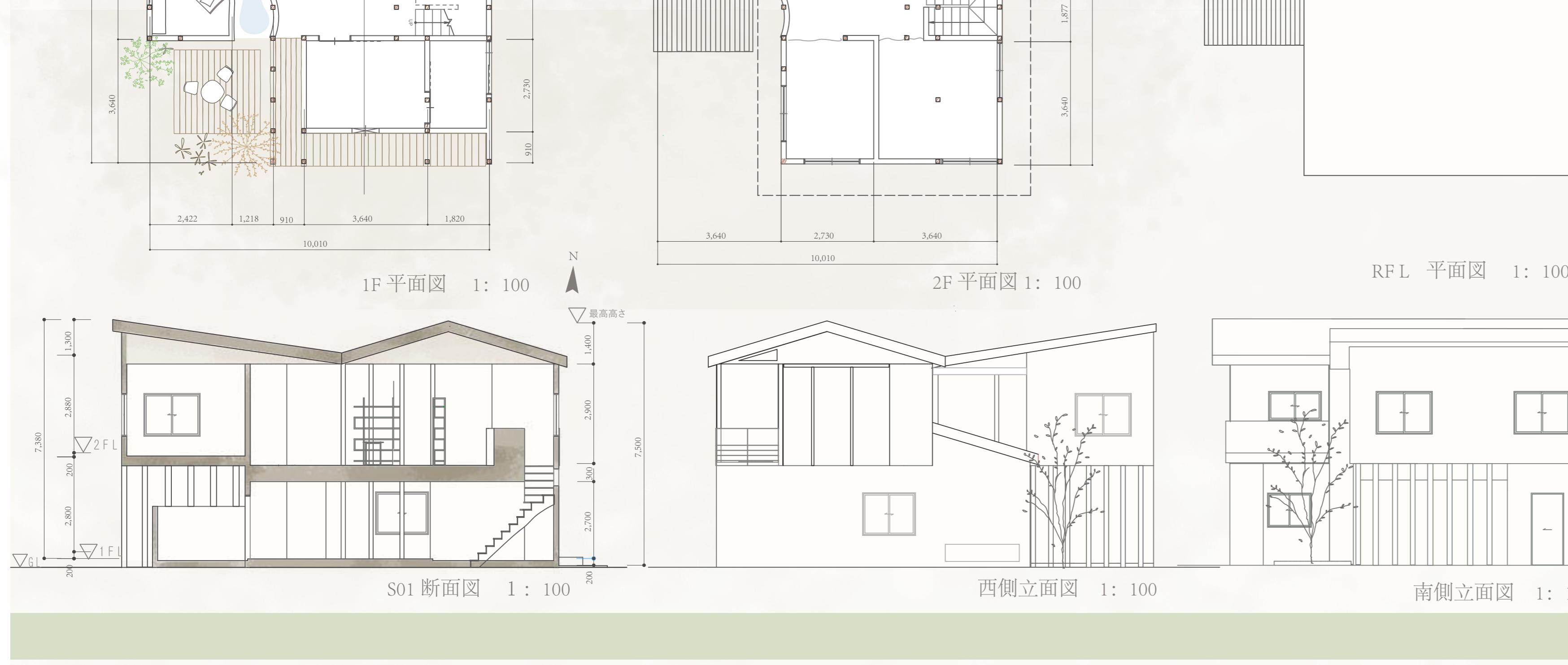
地域の先輩ママとの交流
子ども一時預かり
離乳食レシピ教室

⑥メンタルケア

メンタル相談・リフレッシュルーム・閲覧コーナー

⑦託児所

地域の方々と子どもが触れ合える
託児所

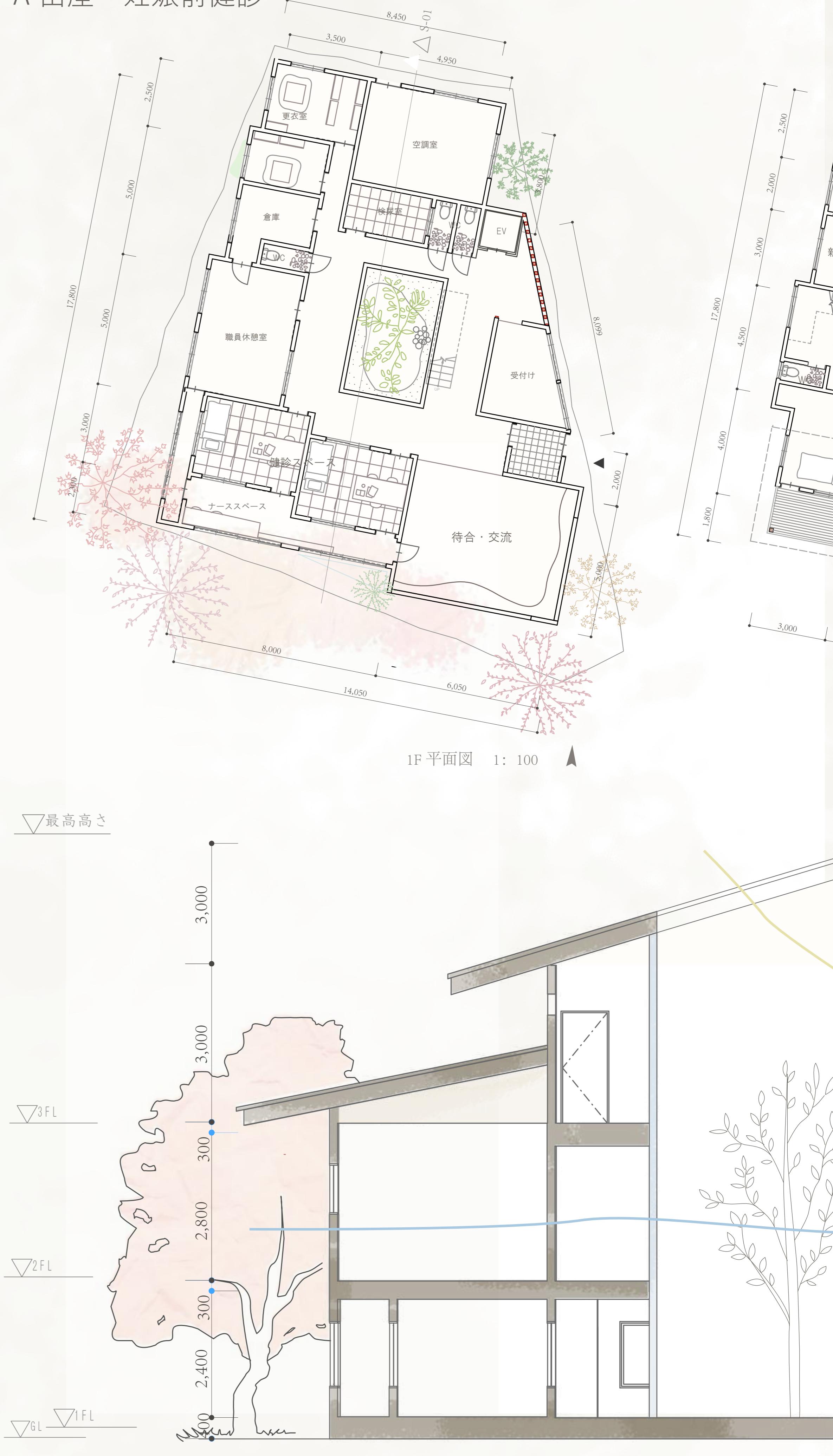


改修前図面 1:250

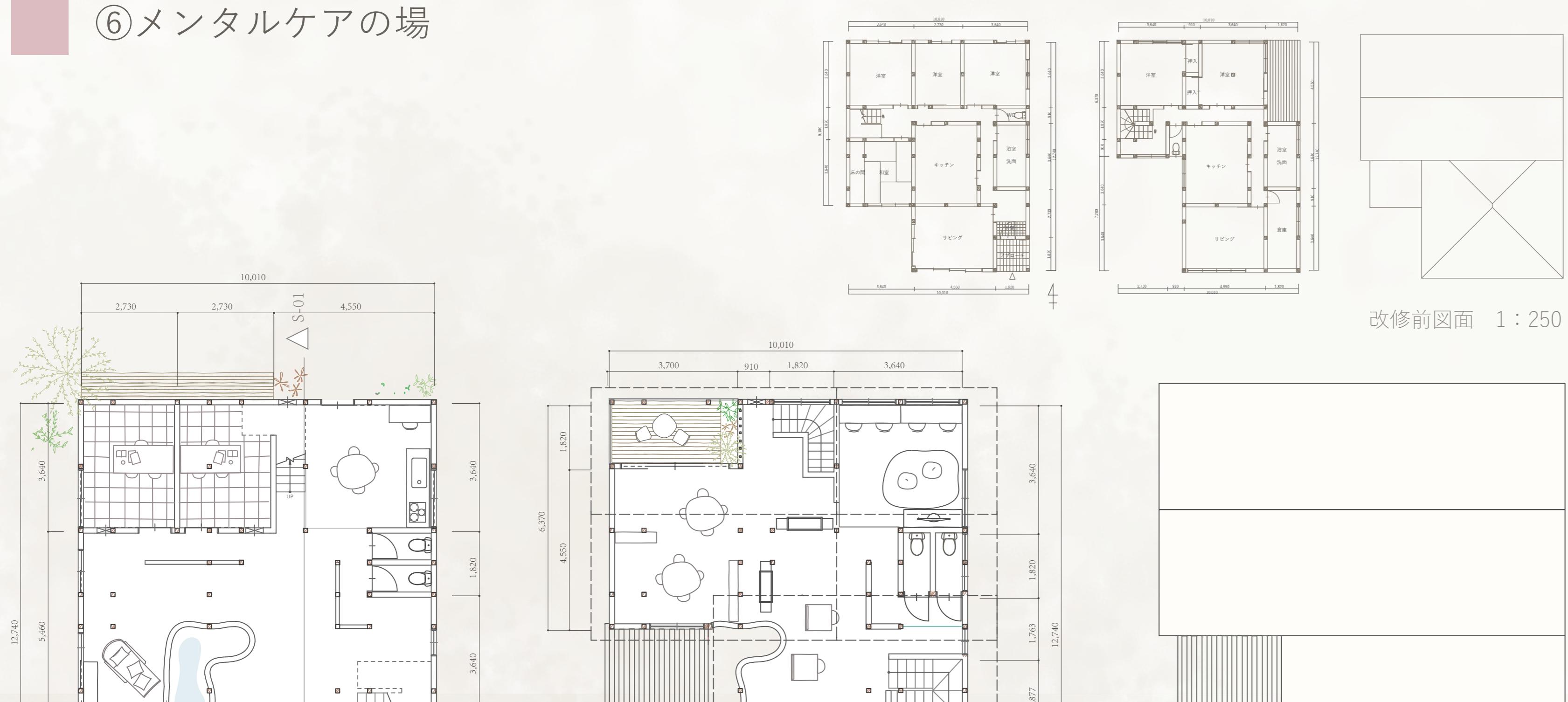
⑤先輩ママとの交流の場

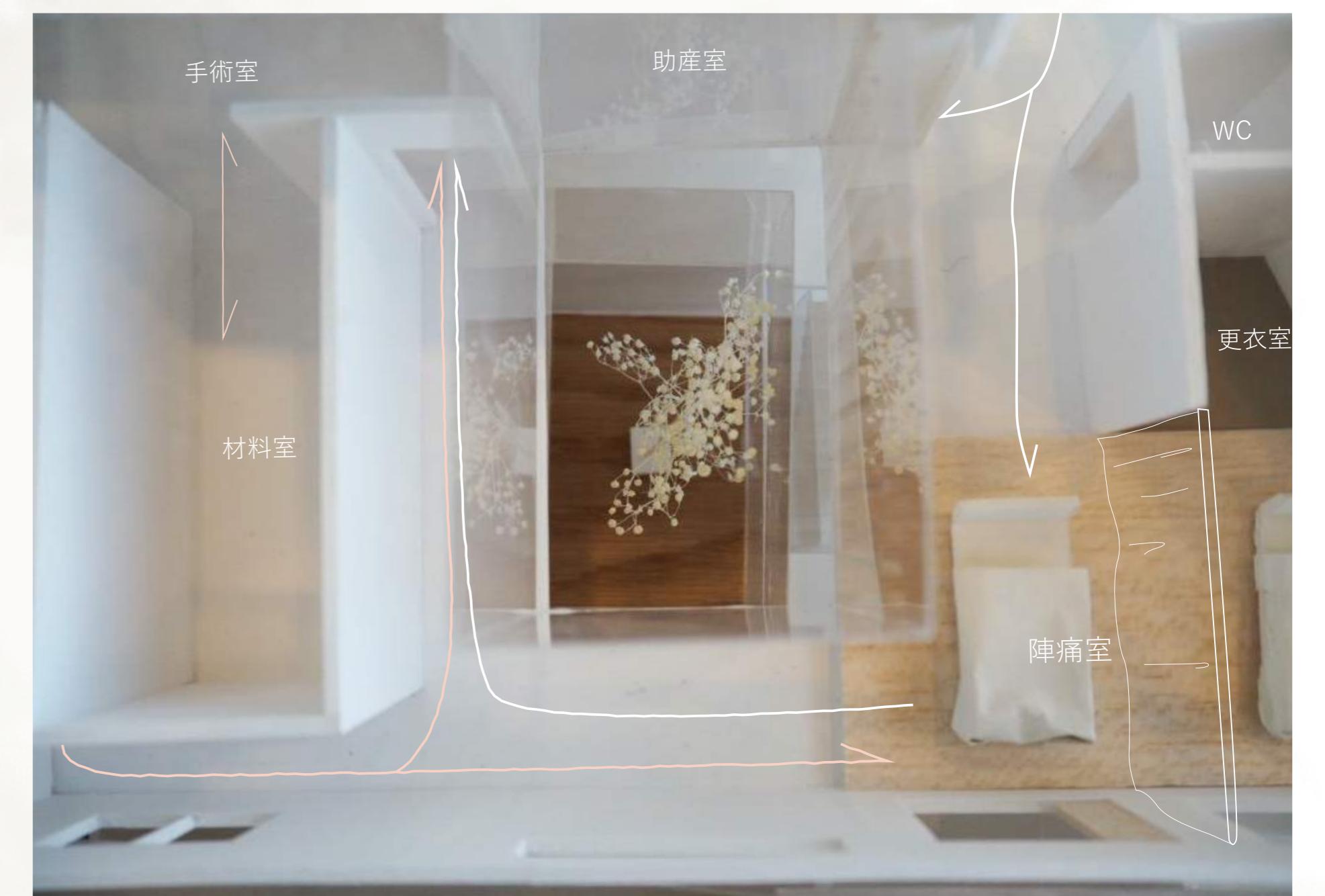
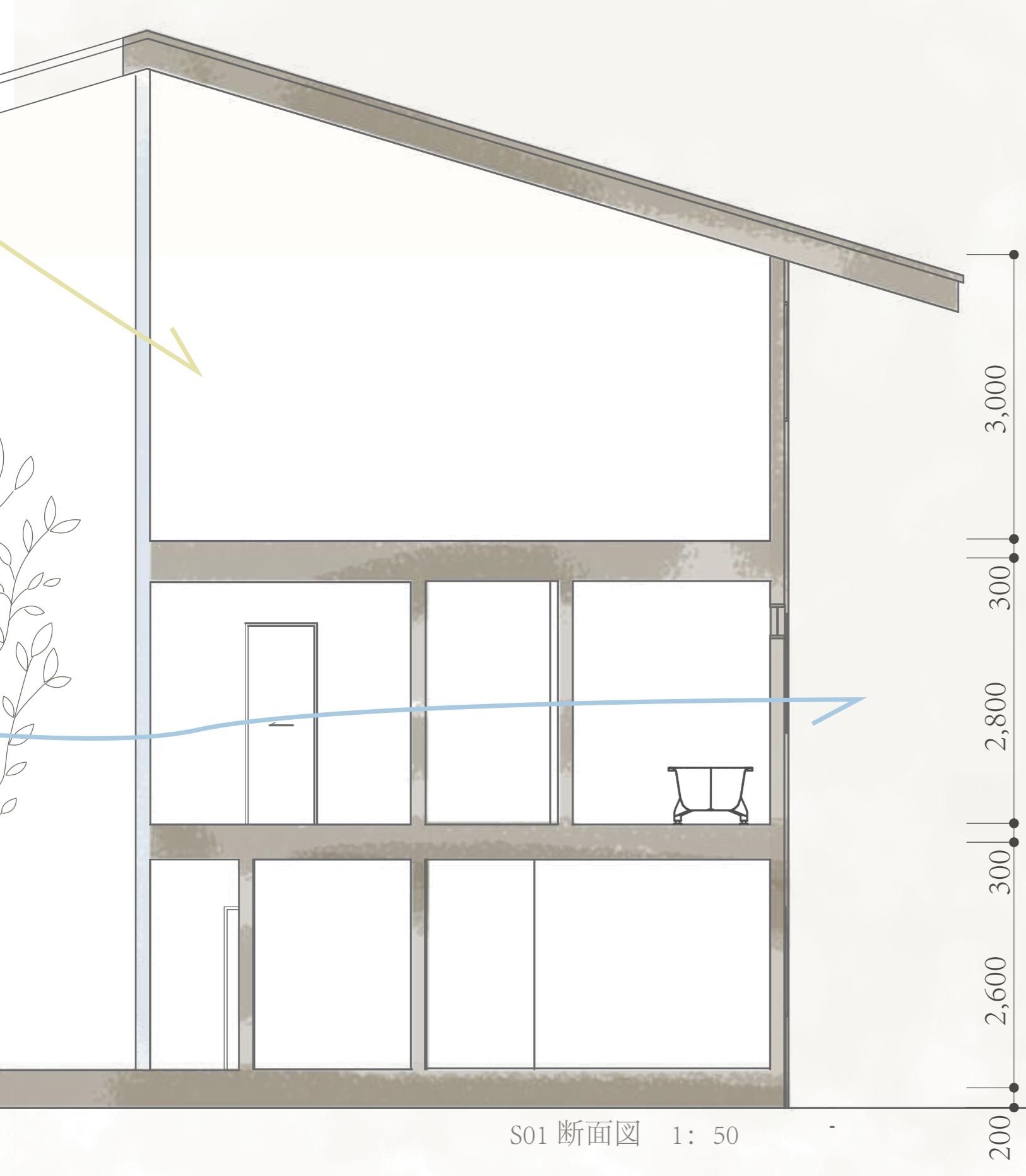
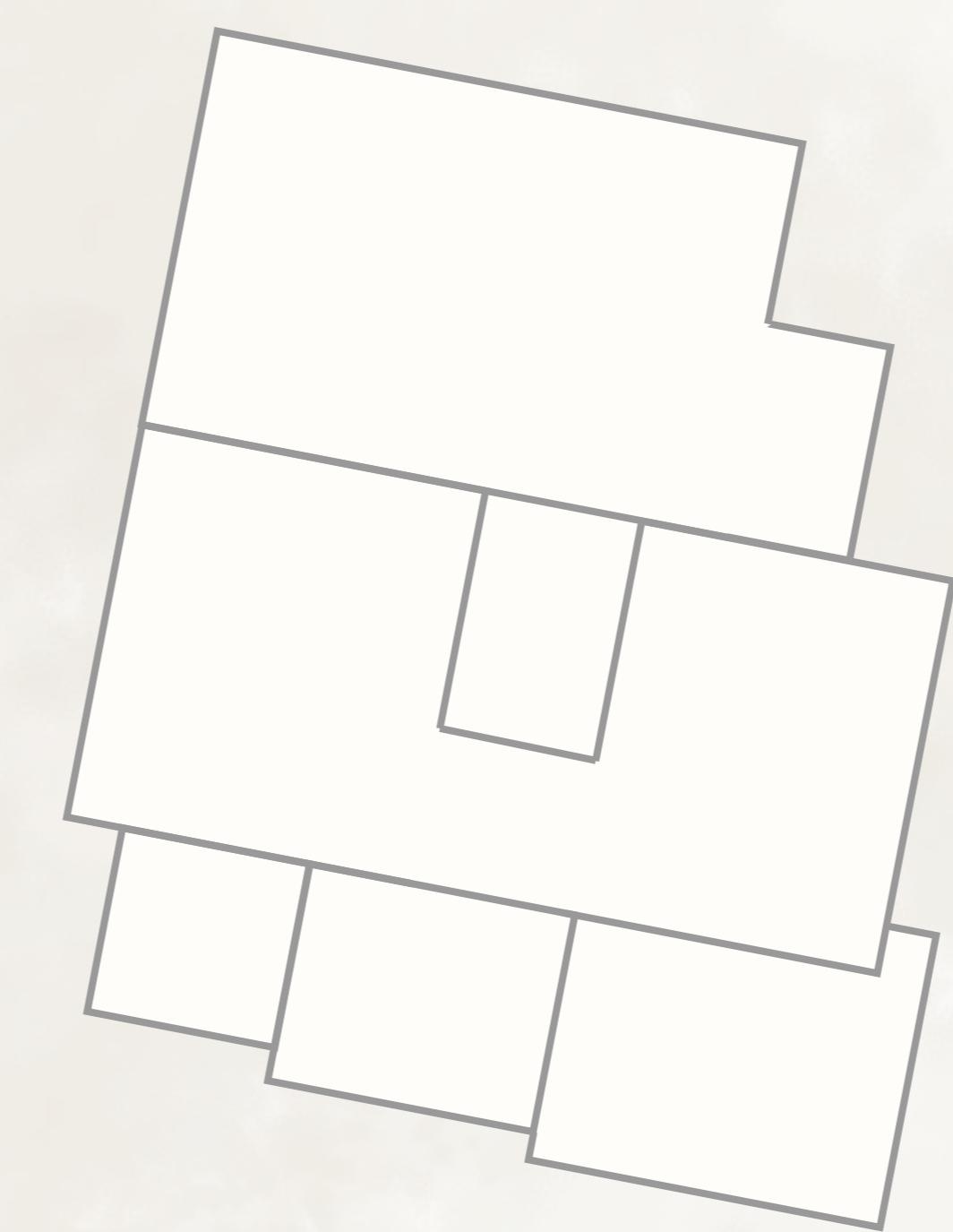
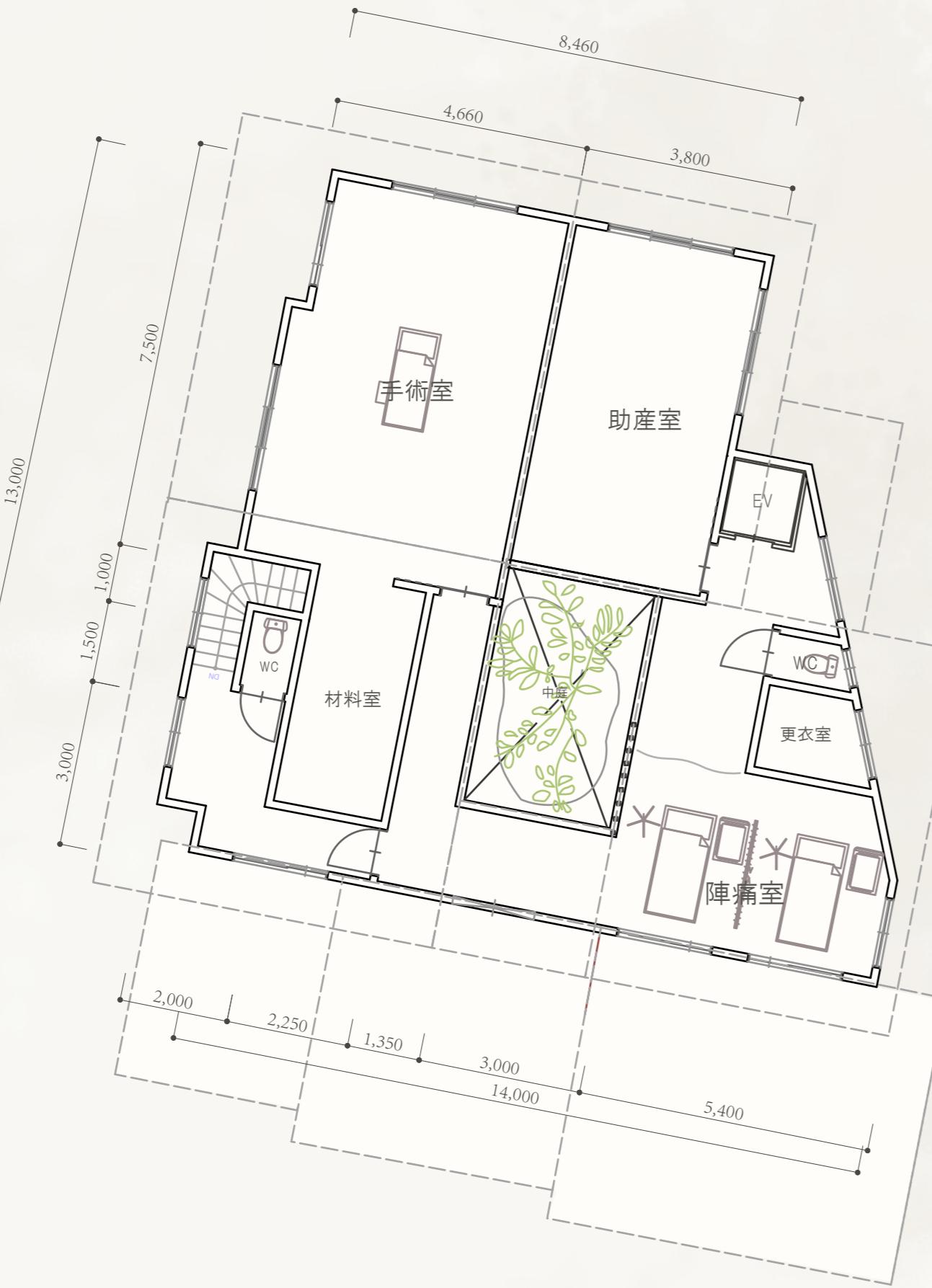


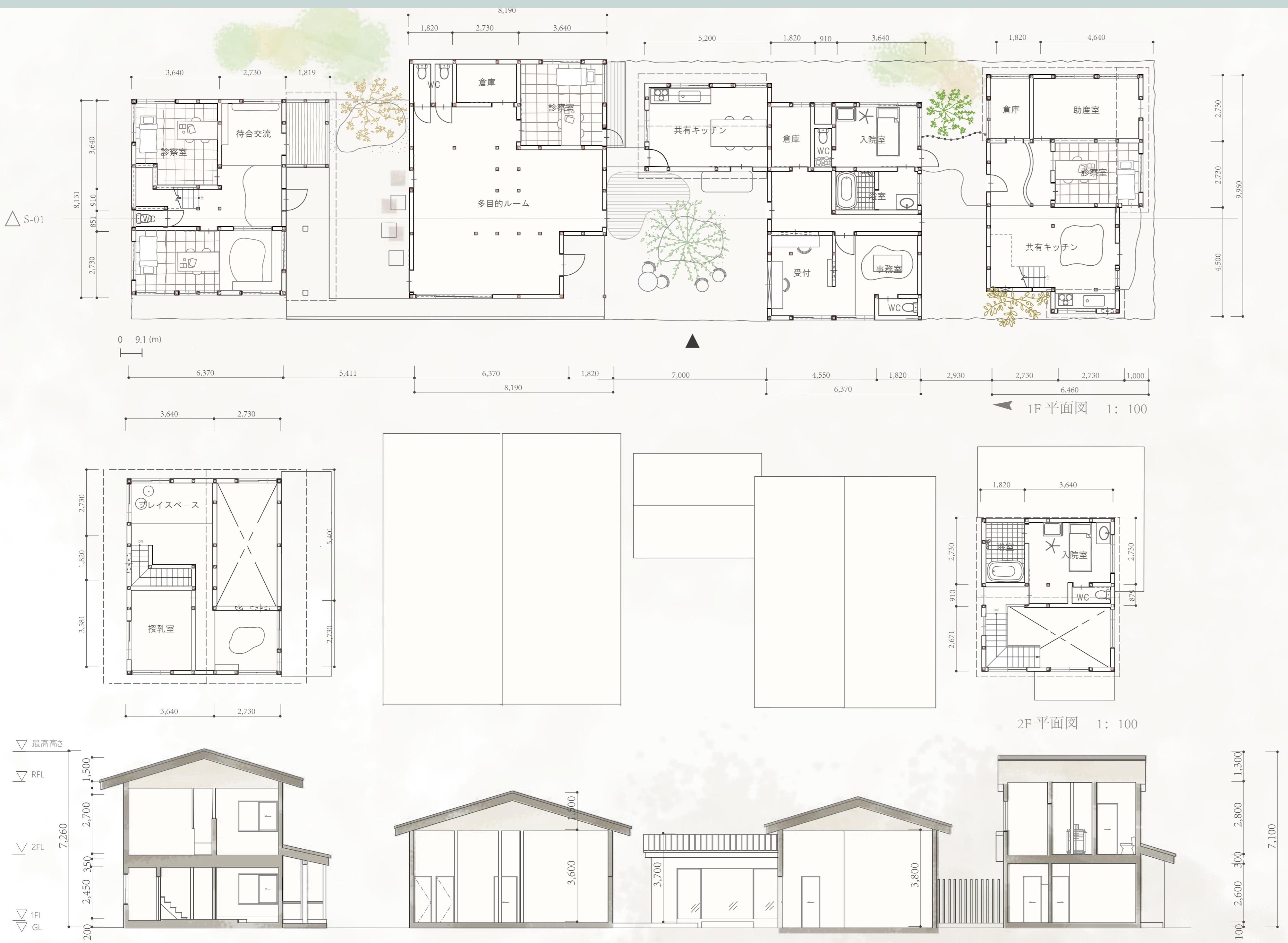
A 出産・妊娠前健診



⑥メンタルケアの場







↑①②診察室と中庭



↑④の入院室



↑ エントランスの中庭



西側立面図 1：50